

観音堂

観音堂とその隣にある三階建ての仏塔により、四本龍寺は構成されています。四本龍寺は、日光でも最古の聖地の一つ。伝説によると、輪王寺の開祖・勝道上人（西暦 735-817）が、この地で祈禱をしていた時に、男体山から大きな紫色の雲が立ち昇るのを見たといいます。勝道上人はこの雲を神のお告げと考えて、簡素なわらぶき屋根の小屋でできた寺を建立。勝道上人はこの寺を紫雲立寺と名付けました。後に紫雲立寺は、現在の四本龍寺と改名されます。四本龍寺はもともとの寺・紫雲立寺と似た発音です。勝道上人が雲を見た時に座っていた石は現在、隣にある仏塔の前に置かれています。不動明王の石像と石製の火の護摩壇も近くに設置されています。この石像も護摩壇も、勝道上人の時代に安置されたものです。

807年にこの観音堂は建立されました。観音堂には千手観音像が祀られています。千手観音は輪王寺に安置されている三仏のうちの一つの仏で、男体山に化身したと考えられています。この観音堂は、日光にある建物の中でも、素木で建立されている数少ない建物のひとつです。